

(別紙)

I Hクッキングヒーターのユーザビリティ向上に向けた取り組みについて

1. I Hユーザビリティ調査・研究に向けた取り組み

平成 16 年に、視覚障がいのお客さまからいただいた声がきっかけとなり、高齢者や障がい者における I H の使いやすさを検証する調査・研究活動と、お客さまサービスの向上に取り組んでいます。

< 調査協力 > 50 音順

奥秋 曜子先生(料理家) かるがもの会、(財)共用品推進機構、更友会、国立障害者リハビリテーションセンター、埼玉県パーキンソン病友の会、北海道公立学校法人札幌医科大学、(社)聴力障害者情報文化センター、(社)東京都視覚障害者生活支援センター、(社)日本点字図書館、(社)日本リウマチ友の会、山梨県立盲学校、横浜市片麻痺協会

(参考) I Hユーザビリティ調査の様子

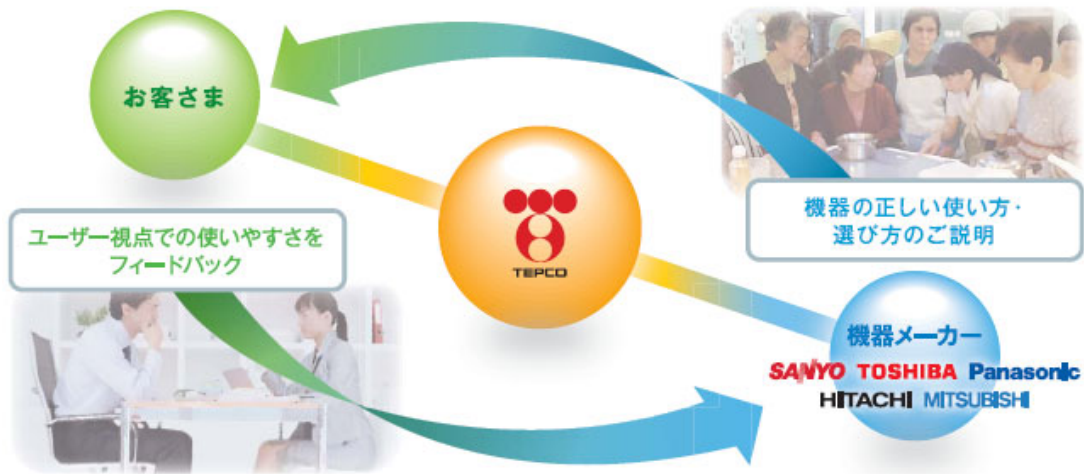
< 視覚障がい者による検証 > < 肢体不自由者による検証 > < 字幕・手話に関する調査 >



2. I Hユーザビリティガイドラインの策定とメーカーへのフィードバック

I Hユーザビリティ調査の分析結果をもとに、使いやすいボタンの形状、表示、配置、操作方法を明らかにした上でユーザビリティガイドラインを策定し、機器メーカーに情報提供することにより、I Hのユーザビリティ向上に貢献しています。

(参考) お客さまの声を商品開発につなげる取り組み



(参考) ユーザビリティガイドライン 抜粋

高齢者に使いやすいIHのイメージ

緑色: 視覚障害者からの課題抽出
赤色: 聴覚障害者からの課題抽出
青色: 肢体不自由者からの課題抽出

IH加熱操作 <ul style="list-style-type: none"> ●天面シートスイッチ ●左右IHごとにまとめる 	IH天面のデザイン <ul style="list-style-type: none"> ●鍋位置がわかるザラザラ感のあるトッププレートの印刷 	主電源操作 <ul style="list-style-type: none"> ●上面スイッチ ●「入」ランプのコントラスト
--	---	--

3口タイプ

グリル引き出し・再収納操作

- グリルの取手は掌全体に力が分散するよう太い円形断面
- 引き代は短く(ワイド)・レール式
- 受け皿に取手をつける
- 受け皿が取り外しやすい位置までの引き代が必要。

分かりやすいボタン

- ・ヒーター別にブロック化された操作ボタンが配列や仕切り線
- ・ブロックごとに間隔があいている
- ・操作ボタンに点字もしくは突起がついている (JISS0011 - 消費生活製品の凸記号表示)
- ・操作感のあるスイッチ (タクトスイッチ)
- ・操作にあわせて音で確認できる (JIS規格)
- ・各々の操作で「基準音」・「基準位置」がある

わかりやすい表示

- 注意喚起 (点滅) ・完了 (点灯)

グリル設定操作

- グリル操作はカンガルーポケットにまとめる

(参考) 製品への反映例 ~ 高齢者や障がい者にも使いやすいIHが誕生 ~



3. お客さまサービスの向上と理解活動の展開

高齢者や障がい者などの特性にあわせて、操作説明方法を標準化したマニュアルを作成し、お客さま対応時の内容充実を図るなど、ソフト面での対策を講じました。

また、他電力会社や地方自治体、福祉施設などにも情報提供するほか、勉強会や調理体験会の開催、自立支援訓練への協力など、これらの活動を通じてIHユーザビリティ向上にかかわる理解促進・普及活動に取り組んでいます。

(参考) 説明方法の標準化マニュアル 抜粋

<視覚障がい者に対する鍋の位置説明方法>
身体の一部を使った尺度がわかりやすい
(握りこぶし1つ分等)



<75cm>・突起から握りこぶし一つ分内側が26cm程度の鍋位置
<60cm>・突起から指0本分、指の第一関節分内側が26cm程度の鍋位置

<聴覚障がい者に対するIHしくみの説明方法(字幕・手話付きDVD)>



(参考) IH調理体験会の開催

<福祉イベントでの説明> <視覚障がい者への調理体験> <地方自治体職員との勉強会>



以上